

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

| | |
|-------|--------------------------------------|
| 事業所番号 | 4170200531 |
| 法人名 | 有限会社 千寿園 |
| 事業所名 | グループホーム長寿の里相知 |
| 所在地 | 唐津市相知町大字黒岩518-2 (電話) 0955-51-8114 |

| | | | |
|-------|------------------|-------|------------------|
| 評価機関名 | 社団法人 佐賀県社会福祉士会 | | |
| 所在地 | 佐賀市八戸溝一丁目15番3号 | | |
| 訪問調査日 | 平成 21 年 3 月 12 日 | 評価確定日 | 平成 21 年 4 月 17 日 |

【情報提供票より】(平成21年2月10日事業所記入)

(1)組織概要

| | | | |
|-------|--------------|---------------------------|------|
| 開設年月日 | 平成 18年03月01日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 14 人 | 常勤 7 人, 非常勤 7人, 常勤換算 6.5人 | |

(2)建物概要

| | | |
|------|--------|-------|
| 建物構造 | 木造 | |
| | 1 階建ての | 1 階部分 |

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|----------|----------------|----------|---|
| 家賃(平均月額) | 30,000 円 | その他の経費(月額) | 12,000 円 | |
| 敷金 | 無 | | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 無 | 有りの場合 償却の有無 | 有/無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 | 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ | 円 |
| | または1日当たり | 1,000 円 | | |

(4)利用者の概要(平成21年2月10日現在)

| | | | | | |
|-------|-----------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 17 名 | 男性 | 5 名 | 女性 | 12 名 |
| 要介護1 | 6 名 | 要介護2 | 5 名 | | |
| 要介護3 | 5 名 | 要介護4 | | | |
| 要介護5 | | 要支援2 | 1 名 | | |
| 年齢 | 平均 82.3 歳 | 最低 | 76 歳 | 最高 | 96 歳 |

(5)協力医療機関

| | |
|---------|---------------|
| 協力医療機関名 | 冬野病院(内科) 小田歯科 |
|---------|---------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム長寿の里「相知」は、日本の滝百選に選ばれている「見帰りの滝」の近くにある、2ユニットのグループホームである。緑豊かな周囲の自然に沿うように、ホームの外観や室内は、ふんだんに木を使って建てられており、そこで生活する入居者にゆっくりくつろげる空間を提供している。グループホームが開設して3年目を向かえ、昨年初めて開催した夏祭りには、たくさんの地域の方や家族に参加をしてもらい好評を得ることができた。共に暮らす地域の一員として、少しずつ地域に溶けこんできつつあるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 前回の評価を受け、職員会議で意見交換を行い、改善策について話し合われた。夏祭りの開催を行い地域との連携を深めている。 |
| 重点項目② | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 前回の評価を受け、職員会議で意見交換が行われているが、管理者を中心に実施している。サービス評価の意義や目的を全職員で共有することが、今後のサービスの質の向上につながる。全員で自己評価に取り組まれることを期待する。 |
| 重点項目③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) |
| | 二ヶ月ごとに開催し、入居者の状況や、行事予定、ホームからのお知らせなどを議題にしている。その結果は議事録に整理され、災害の対応や地域の見守り体制などサービスの向上に活かされている。 |
| 重点項目④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) |
| | 家族の面会時に、意見や相談を聴くようにすると共に、玄関に苦情箱を設置し、毎月発行される「あじさい便り」にもお問い合わせ先を記載している。 |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| | 地区の行事には、入居者の体力を考慮しながら参加をしている。地区の小学生の訪問や手品、踊りなどのボランティアを受け入れている。昨年の夏、初めてグループホームで夏祭りを開催し、地域の方の参加があり、徐々に地域に溶け込んできている。 |

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------------------------------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 地域の人と触れ合いながら、地域の医療を活用し、楽しく生活するということを目的に、事業所独自で「明るく、楽しく健康で、笑顔ある生活を」という理念を、設立時職員全員で作りに上げている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 毎月行われる職員会議で、理念に基づいた日常業務の中での気付きなどを管理者が話している。また、新しい職員が入ると、管理者がその理念について説明し理解をしてもらい、毎朝の申し送り時、職員全員で唱和している。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地区の行事には、入居者の体力を考慮しながら参加をしている。地区の小学生の訪問や手品、踊りなどのボランティアを受け入れている。昨年の夏初めて、グループホームで夏祭りを開催し、地域の方の参加もあり、徐々に地域に溶け込んできている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 前回の評価を受け、職員会議で意見交換が行われているが、管理者を中心に実施している。 | ○ | サービス評価の意義や目的を全職員で共有することが、今後のサービスの質の向上につながる。全員で自己評価に取り組まれることを期待する。 |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 二ヶ月ごとに開催し、入居者の状況や、行事予定、ホームからのお知らせなどを議題にしている。その結果は議事録に整理され、災害の対応や地域の見守り体制など、サービスの向上に活かされている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 唐津市相知支所の介護保険課に、困ったとき相談する。唐津市の介護相談員は、定期的に訪問があり、利用者の方とも交流をしてもらっている。市町村との関係作りが出来ている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている | 毎月発行している「あじさい便り」に、各担当者が入居者ごとに近況報告を書いて、写真と共に送っている。金銭報告が必要な入居者に関しては、電話連絡と共に請求明細も送付している。 | ○ | 職員の異動については、家族にとっても不安がある。毎月発行される便り等に、家族が安心できるようなメッセージを添えて、職員の異動についての報告をされることを期待する。 |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族の面会時に、意見や相談を聞くようにすると共に、玄関に苦情箱を設置し、毎月発行される「あじさい便り」にもお問い合わせ先を記載している。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員の異動があった場合、新人職員が慣れるまでは、実際の業務に付かず、見守りや、言葉かけを行う練習期間を設けている。また、実際の業務につく場合は、慣れた職員が支援するようにしている。家族には、面会時に新人職員を紹介している。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修に参加した場合は、職員会議や勉強会で研修の報告を行い、全員が共有できるようにしている。 | ○ | 事業所内外の研修を問わず、職員研修は、サービスの質の向上の為には必要である。職員が働きながら技術や知識を身につけていく方策を工夫されることが望まれる。 |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 唐津地区等のグループホームの管理者の集まりに参加し、意見交換や情報交換を行っている。また、他のグループホームの見学を行いサービスの質の向上に努めている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----------------------------------|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入居が決まっている方については、職員や他の入居者、サービスの場に徐々になれてもらう為に、家族からの聴き取りを十分に行っている。急に入居が決まった方については、本人の様子を見ながら、徐々に馴染んでもらうよう工夫している。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 入居者の出来ることは、食堂の台ふきや掃除など日常生活の中で行ってもらうように工夫している。また、入居者との会話の中から、いろいろな生活の工夫を教えることもある。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人の様子や、家族との話し合いの中から、本人の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 入居者の思いや、意向を把握するために、独自のカンファレンスシートを作成し、各項目ごとにケアの目標を立てて実施している。介護サービス計画書は、サービス担当者会議にて家族の参加を得て作成している。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 入居者の状態に変化があった場合は家族に連絡し、ケアプランの見直しを行っている。介護計画は、定期的に見直され、職員会議にて共有している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------------|----|---------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用) | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 本人、家族の要望に応じて、外出、通院等に臨機応変に対応している。急な要望があった時にも、出来るだけ希望に沿うようにしている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医は、ホームの主治医に限らず、本人、家族が希望する主治医となっている。各医療機関とは、連絡を取り情報提供を行いながら、適切な医療が受けられるよう支援している。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 看取りについて、希望される入居者がいれば行う予定である。入居時に延命治療と終末期の看取りについて、家族に聞き取りをしている。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 職員会議で個人の尊厳を守るよう、職員の行動や言葉かけについて話し合い、全員で共有している。記録などの個人情報については、事務所に保管されている。家族にも個人情報の取り扱いについて説明し、同意を得ている。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 職員は、出来る限り入居者とかかわりを持ち、入居者の希望に添って、散歩、テレビ、編み物、習字など楽しみの支援を行っている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------------|----|---------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|------|-----------------------------------|
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 会話をしながら、ゆっくりと食べられるように配慮している。入居者の希望を聞いてメニューを決めたり、行事食で楽しんでいただいたり、一人ひとりの状態に合わせた食事を提供している。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 入居者一人ひとりの希望や状態に合わせた入浴支援が行われている。拒否する人がいれば、無理に行わないで時間や日時をずらして行っている。希望があれば、夕食後の入浴も支援している。 | | |
| (3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 毎月楽しみごとの行事を行い、入居者の経験や知恵を発揮する場所や機会を作り出している。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 入居者の希望に応じて、散歩や自宅の玄関を見に行ったり等、外出の支援を行っている。 | | |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 玄関、居室は鍵をかけないケアを実践している。緊急の場合に備えて、玄関にはセンサーを設置している。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 災害時に備えて消火と緊急時のマニュアルが整備され、近隣の消防団や近所の方とも連携を取っている。夜間想定避難訓練、通報訓練、消火器の取り扱いを含めた消火訓練を実施している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|------|-----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 入居者一人ひとりのペースを把握し、食事の嗜好や席順を考慮している。摂取量については、毎食毎に記録している。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有の空間は、入居者の作品やボランティア等の訪問時の写真、季節の花などを飾って、和やかな雰囲気作りをしている。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居前に使用していた、箆箆や仏壇をおいて、入居者が居心地よく過ごせる空間を作り出している。 | | |